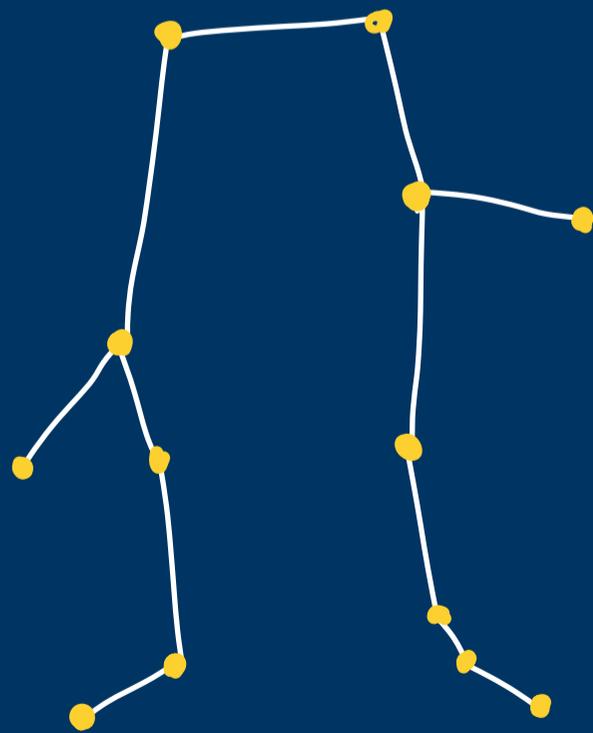
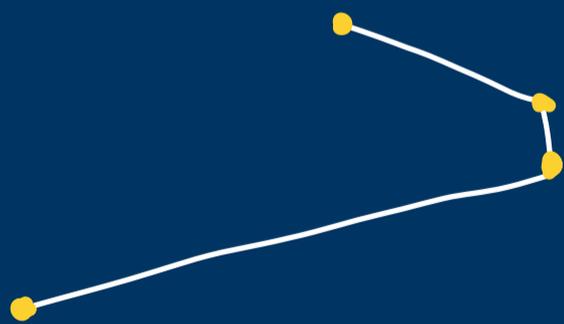


天文同好会

黄道十二星座



目次

1 黄道とは

2 十二星座の解説

3 活動報告

おひつじ座

【おひつじ座の神話】

空を飛ぶことのできる金毛の牡羊の姿で、継母から憎まれていたテッサリアの王子プリクソスと王女ヘレーを背に乗せコルキスの国へ逃れさせたと言われています。牡羊は二人を背に乗せると、たちまち空に飛び上がりましたが、妹のヘレーは目が眩み海に落ちて死んでしまいました。プリクソス王子はなおも羊の背に乗ってコルキスまで運ばれ、国王から親切に迎えられ王女と結婚しました。その後、牡羊の金色の皮衣は大切に保管されていましたが、勇士ヤーソンがアルゴ船に乗って取り戻しに来るのです。

【おひつじ座の位置・見頃】

10月下旬の深夜頃真上に見える星で、青白い星がたくさん集まっているプレアデス星団の近くにあり綺麗に見ることができます。

おうし座

【おうし座の神話】

大神ゼウスがエウロパ姫を拐った時に変身した雪のように白い牡牛です。ある晴れた日、白く綺麗な牡牛がエウロパ姫に近づき、自分の背に乗りなさいというような素振りを見せました。エウロパ姫はつい気を許して、面白半分にその背に乗ると牡牛はサッと立ち上がるや身を翻し、一目散に海に入り込んで沖へ沖へと出て行ってしまいました。驚いたエウロパ姫は牡牛の角に縋りつき、遠ざかる浜辺に声を限りに助けを求めましたが、どうすることもできず、我にかえり白い牡牛に「私をどこに連れて行くつもりなの？」と尋ねたところ、牡牛は優しく人間の言葉で「私は大神ゼウスで、おまえを花嫁にするのだよ」と答え、二人は地中海を渡ってギリシアのクレタ島につき、ゴルデュンの泉の側で結婚しました。

【おうし座の位置・見頃】

冬の空に東側からオリオン座を追いかけるように昇り、ベテルギウスとオリオン座が近くにあります。また、明るい木星と土星が近くで見えることがあり、冬の代表的な星座です。

ふたご座

【ふたご座の神話】

大神ゼウスの血を受けた半神で不死身の弟のポルックスと、人間である兄のカストルの二人はいつもお互いを助け合う仲良し兄弟でした。ある時従兄弟がカストルを弓矢で射殺するという事件が起こり、ポルックスはその従兄弟たちと戦いカストルの敵を討ちましたが、不死身のため死んでもあの世へは行けません。そこで大神ゼウスに「私も死なせて、兄カストルといつも一緒にいさせて下さい」と願い出ました。大神ゼウスは1日ごとに兄弟をあの世とこの世で暮らせるようにしました。

【ふたご座の位置・見頃】

冬の夜空高くに見ることができ、こいぬ座の1等星であるプロキオンが近くにあり、とても見つけやすいです。冬の夜空は澄んでいて、かなり綺麗に星が見えるのでぜひ一瞬でも空を眺めてみてください。

かに座

【かに座の神話】

かに座のモデルとなったのは、ギリシャ神話のヘラクレスとヒドラの戦いの中に登場する大蟹カルキノスです。

カルキノスはヒドラとは同じ泉に住む友達で、ヘラクレスが悪さをするヒドラを退治しに来た際、ヒドラが劣勢になったので加勢に入ろうとしてヘラクレスの足を挟みましたが、あっさり踏み潰されて死んでしまいました。これを哀れみ、また勇気を讃えた女神ヘラがカルキノスをかに座にしました。(ヘラクレスと女神ヘラは仲が悪い)

【かに座の位置・見頃】

かに座はしし座とふたご座の間にある春の星座です。

残念なことにかに座は明るい星がないので、都会ではなかなか見ることができません。星がよく見えるところに行った際に探してみてください。

しし座

【しし座の神話】

獅子座のモデルになったのはメネアの森に住んでいた人喰いライオンです。その人喰いライオンは怪物デュフォンの子で、大きい上にその皮膚は鉄よりも硬い怪物でした。

ある時この話がティリュンスのエウリステウス王の耳に入りました。ちょうどこの時王のところには、妻子殺したという大罪を犯したヘラクレスが身を寄せていました。王は「罪の償いにちょうど良い」と考えてヘラクレスにこの怪物の退治を命じたのです。

こうしてヘラクレスはメネアの森に1人で入って行きました。何日も森の中をさまよった末に、ヘラクレスはやっと人喰いライオンに出会いました。ヘラクレスはライオンに矢を射かけますが、みんなはじき返されてしまいました。そして今度は逆にライオンがヘラクレスに襲いかかってきました。とっさに身をかわし、ライオンを素手で押さえつけたヘラクレスは、三日三晩ライオンの首を締め続けてとうとう退治しました。

女神ヘーラーはヘラクレスが大嫌いだったので、よくヘラクレスと戦った。とライオンを褒めて星座にしました。

【しし座の位置・見頃】

誕生星座が見頃を迎えるのは、誕生日から3~4ヵ月ほど前になります。しし座生まれの人の誕生日は、7月23日頃から8月22日頃なので、夜空にしし座を探すベストシーズンは、春先から初夏にかけての4月~5月です。

おとめ座

【おとめ座の神話】

母親に農業の女神デーメーテル、父親に大神ゼウスを持つ娘ペルセフォネーがいました。

冥界の神ハデスがペルセフォネーに恋をしました。でもデーメーテルは娘を冥界に行かせたくない思いです。そこでデーメーテルは娘をシチリア島に隠し、下級女神達にも娘を守るよう伝えました。ハデスは怒って、庭でニンフ達と遊んでいるペルセフォネーをさらいました。

農業の女神の悲しみに、草木は枯れ、作物は全く取れません。人々は飢え、死人も出てきてしまいました。その様子を見ていたゼウスは、ハデスにペルセフォネをデーメーテルの元に返すよう説得しました。ペルセフォネは地上に帰れることになりましたが、ハデスはペルセフォネが地上に戻る前に冥界のザクロを食べさせました。そのザクロは食べると一年の三分の一（4ヶ月）の間冥界に戻らなければいけなくなるものでした。

この期間がデーメーテルの悲しみにより作物ができなく、おとめ座は夜空にのぼらない冬だといわれています。

【おとめ座の位置・見頃】

おとめ座生まれは主に9月ですが、9月におとめ座は見えません。太陽の向こう側にいってしまいます。5ヶ月ぐらい前の時期が一番見やすい位置にあります。

てんびん座

【てんびん座の神話】

太古の昔、神々は人々と一緒に暮らし、人々もまた、神々を敬って暮らしていました。争いもなく、アストレアの天秤は善の皿が傾くばかりでした。

しかし、パンドラが世界中の災厄をつめていた箱の蓋を開けてしまいます。

それから人々は、ほかの人が持っているものが欲しくなり、誰よりも自分が偉いように思いはじめ、争いが起こりはじめます。こうなるとアストレアは天秤をもって走りまわり、人々の善悪を計らなければなりません。一方、ほかの神々は互いが争う様子を見て人々のもとを去り、天界へと帰って行きます。しかし、アストレアだけは人の世界に留まり善行を薦め、悪を改めるよう人々を諭します。

けれども、アストレアの天秤は、悪に傾くばかりです。

とうとうアストレアも人々を見限り、天界へ帰って行ってしまいます。

そのような物語が神話で伝えられていますが、このアストレアの天秤が、てんびん座になっているとされています。

【てんびん座の位置・見頃】

てんびん座の探し方は、さそり座を頼りにして探し出すのが簡単で、てんびん座は、サソリの頭にあたる場所の西に位置しています。

さそり座は夏の代表的な星座で、赤くて明るい1等星・アンタレスが輝いています。

全体に「S」字のように星が並んでいるので、見つけやすい星座です。

さそり座

【さそり座の神話】

さそり座のモデルとなったのは、狩人オリオンを刺したさそりです。オリオンが傲慢にも「このオリオンに敵うものなどない」などとのたまうので、怒った神々がさそりを放ち、さすがのオリオンも毒には耐えられずに死んでしまいました。この功績を讃えられて、さそりは星座となりました。オリオンの死因には、さそりのほかに月の女神アルテミスに射られたという説もあります。

【さそり座の位置・見頃】

さそり座は夏に見られる星座で、一等星のアンタレスを目印に探します。赤く光っているととても明るい星なので、すぐに見つけられるかと思います。アンタレスはさそり座の心臓に例えられることもあります。ちなみに、さそり座とオリオン座は神話とリンクしており、オリオン座が沈んでしばらくするとそれを追いかけるようにさそり座が登ってきます。

いて座

【いて座の神話】

いて座のモデルとなったのは、ケンタウロスの賢者であるケイローンです。ケイローンは弟子のヘラクレスに誤って毒矢で射られてしまい、亡くなります。ケイローンは生前多くの人に知識を与えるなどの功績があったため、ゼウスがケイローンの死を悼んで星座にしました。ギリシャ神話の数多くの英雄がケイローンに師事しており、ふたご座のカストルもケイローンの弟子です。

いて座は弓矢をつがえたケンタウロスの形をしていますが、これはケイローンが女神アルテミスから狩猟を学んでおり、武術の名手であったからです。

【いて座の位置・見頃】

いて座は夏に見られる星座で、いて座に含まれている南斗六星が目立ちます。さそり座の隣に位置していて、その姿はまるでさそり座が悪さをしないように見張っているかのようです。

やぎ座

【やぎ座の神話】

神々の宴会に怪物テュポンが乱入しました。神々は姿を変えて逃げ出しても、羊飼いの神パーンが慌てすぎて下半身が魚、上半身が山羊の状態で逃げ出し、他の神々がこの姿を見て喜び星座にしました。

【やぎ座の位置・見頃】

秋に見られる星座で、いて座とみずがめ座の間にあります。明るい星が少ないので、いて座の南斗六星を目印に直角三角形のやぎ座を探して見てください。また、うお座のアフロディーテ、みなみのうお座のアポロンもテュポンから逃げる際に神々が変身した姿なのでぜひ一緒に見てください。

みずがめ座

【みずがめ座の神話】

みずがめ座のモデルとなったのは、神々の給仕役であるガニメデと彼が持つ水がめです。神々の給仕の役はもともとヘーベという女神がやっていたのですが、彼女は結婚して給仕役を退職してしまったのでゼウスが以前から聞き及んでいた美形で噂の青年をさらってきて給仕役にしました。その青年がガニメデです。とんだ災難ですが、ガニメデも無償で働かされているわけではなく不老不死を与えられており、またガニメデの父にはお詫びに足の速い神馬が与えられています。

【みずがめ座の位置・見頃】

みずがめ座は秋に見られる星座で、やぎ座とうお座の間に位置しています。残念ながら全体的に暗い星座なので、都会で見つけるのには向いていません。星がよく見えるところに行ったら際にはぜひ三ツ矢の形をした星を探してみてください。

うお座

【うお座の神話】

女神・アフロディアとエロスが魚に変身した姿がモデルとなっています。ある日、エリダヌス川(ナイル川とも言われています)の畔で宴会を楽しんでいたオリンポスの神々は、突然現れた怪物・テュフォン(ティポン)に驚き、さまざまなものに姿を変えて逃げ出します。この時、大神・ゼウスは鳥になって空へと逃げ去りますが、アフロディアとエロスは魚の姿に変わり、エリダヌス川へ逃れたと伝えられています。糸で繋がっているのは、母子であるふたりが離れないためだそうです。

【うお座の位置・見頃】

うお座は晩秋の頃に見頃を迎える星座です。明るい星が少ない星座なので、夜空の明るい都会で見つけることは難しく、郊外でも目立つ星がないので目立ちません。秋の四辺形のすぐ近くにあるので、それを目印に探してみてください。

活動報告

天文同好会は、毎週火曜日に活動しており、主にはオープンキャンパスや文化祭の準備をしています。夏休みには部員そろってプラネタリウムに行き、今年の文化祭のテーマである十二星座に関する投影を見ました。部員が全員で5人しかおらずピンチではあるのですが、人数が少ない分自由度が高く楽しい部活です！